

平成24年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成24年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

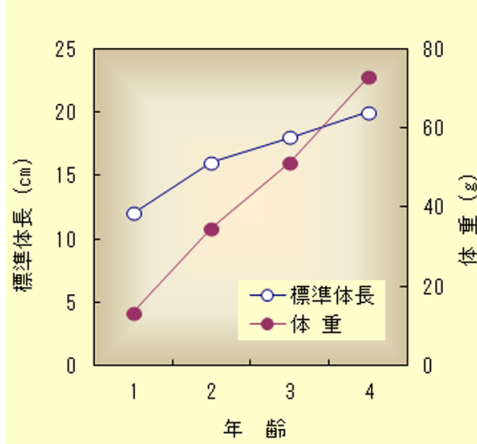
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 1.5歳
産卵期・産卵場: 周年(ピークは春季と秋季)、産卵場は不明
索餌期・索餌場: 周年、水深100～200m
食性: 浮遊性小型甲殻類
捕食者: ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等

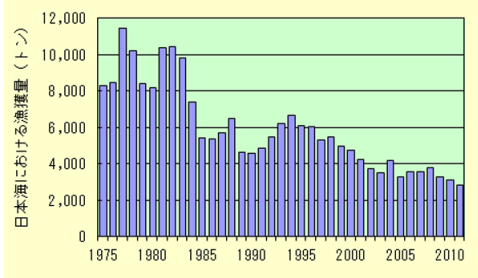


漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸に形成され、総漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされる。日本海の本州沖合において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)で漁獲される。日本海では、新潟、石川、兵庫、島根の4県での水揚げが多く、これら4県で日本海側総漁獲量の約9割を占める。

漁獲の動向

日本海における漁獲量は、1975～1983年は10,000トン前後で推移していたが、1984年以降減少傾向となり、1990年には約4,600トンとなった。1991年以降は増加に転じ、1994年に6,600トンに達したが、その後再び減少し、2002年以降3,500トン前後で推移した。2005年以降、3,000トン台であったが、2011年は2,843トンと3,000トンを下回った。

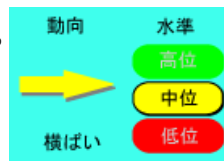


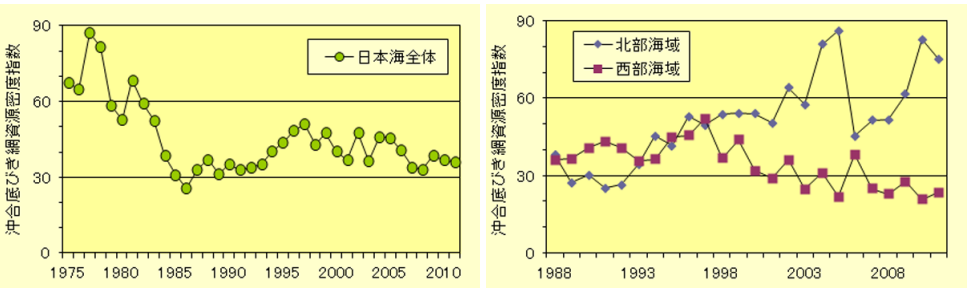
資源評価法

日本海全体における沖底(1そうびき)による資源密度指数を資源評価の指標値として、本系群の資源状態を判断した。また、近年、本系群の資源状況は海域によって異なる傾向があり、日本海を北部海域(加賀沖以北)と西部海域(若狭沖以西)に分けた場合の沖底(1そうびき)の資源密度指数も考慮した。

資源状態

資源密度指数は1977年をピークに1986年まで減少し、1987～1997年に増加した。その後、増減を繰り返しながら推移した。近年5年間は横ばいで推移しているが、長期的にみると、1997年以降は緩やかな減少傾向にあった。1997年以降における北部海域と西部海域の資源密度指数は、変動傾向が大きく異なった。北部海域では横ばいから変じて増加傾向にあり、2011年は2010年に引き続き高い値を示したが、西部海域では低い値で推移していた。





管理方策

近年の沖底の資源密度指数は経年的に大きな増減なく推移していることから、2011年の資源水準は中位、動向は横ばいと判断した。しかし、長期的にみると1997年以降の資源密度指数は減少傾向にあり西部の資源密度指数は低位水準の範囲にあった。一方、北部では高位水準を維持していた。以上より、現状の資源水準を維持し資源の悪化を避けるため、漁獲圧を増加させないことが適当であると判断した。

	2013年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	24百トン	$0.8 \cdot \text{Cave3-yr} \cdot 0.97$	—	—
ABCTarget	19百トン	$0.8 \cdot 0.8 \cdot \text{Cave3-yr} \cdot 0.97$	—	—

- 平成24年度ABC算定規則が改正され、ABCは $\text{ABClimit} = \delta_1 \cdot \text{Ct} \cdot \gamma_1$ 、 $\text{ABCTarget} = \text{ABClimit} \cdot \alpha$ で計算
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算をし、 k は係数(標準値の1.0)、 b と l は資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間)
- 100トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばいであるが、長期的には減少傾向
- 北部海域と西部海域で資源状態の差が大きい

管理方策のまとめ

- 現状の資源水準を維持し資源の悪化を避けるため漁獲圧を増加させない

執筆者: 松倉隆一・養松郁子

資源評価は毎年更新されます。